

## 平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（S））研究状況報告書

ふりがな（ローマ字）		NAKAGAWA TAKESHI					
①研究代表者名氏名		中川 武		②所属研究機関・部局・職 早稲田大学・理工学術院・教授			
③研究課題名	和文	乾政宮の復元的研究- ユネスコ世界遺産・フエの歴史的建造物群の保全計画-					
	英文	Rehabilitation of the Palace of Hue: Conservation Program for the Hue Monuments Complex, UNESCO World Heritage					
④研究経費		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	総合計
17年度以降は内約額 金額単位：千円		18,700	17,600	17,400	16,600	15,800	86,100
⑤研究組織（研究代表者及び研究分担者）							
氏名	所属研究機関・部局・職	現在の専門	役割分担（研究実施計画に対する分担事項）				
中川 武	早稲田大学・理工学術院・教授	建築史・修復保存学	総合政策研究、保全計画の策定				
佐藤 滋	早稲田大学・理工学術院・教授	都市計画・環境保全	歴史的都市の環境保全・再生計画				
白石 昌也	早稲田大学・アジア太平洋研究科・教授	国際政治・総合政策	総合政策研究、国際協力学				
白井 裕泰	ものづくり大学・建設技能工芸学科・教授	建築史・修復設計	ヴィエトナム宮殿建築の修復設計				
村田 健一	文化庁・建造物課・主任文化財調査官（研究職）	建築史・文化財保護行政	文化財保護行政と技術移転、人材養成				
村松 伸	東京大学・生産技術研究所・助教授	都市遺産資産開発学	宮廷儀礼の環境復原				
西本 真一	早稲田大学・理工学術院・助教授	建築史・エジプト学	阮朝皇城内建築遺構の復元的研究				
大田 省一	東京大学・生産技術研究所・助手	建築史・都市史	仏文資料の収集・読解				
坂本 忠規	早稲田大学・理工学術院・助手	建築史・修復保存学	写真資料の活用とCGシミュレーション・モデル				
⑥当初の研究目的（交付申請書に記載した研究目的を簡潔に記入してください。）							
<p>本研究は、ユネスコ世界遺産「フエの建造物群」（1993年、登録）に対する適切な修復・保存方法の確立とヴィエトナム政府主導の阮朝王宮（乾成宮）・再建計画事業に資する学術情報の収集を目的とし、国際協力の枠組み形成を進める。</p> <p>阮朝紫禁城内の乾成宮は、大宮門と城内の主要な宮殿建築群によって構成され、伝統的な配置計画の規範を踏襲して南北主軸線上に置かれている（計画調書、基盤S-7、参照）。</p> <p>既往の継続研究の結果（計画調書、基盤S-6・同S-7、参照）、各々の基壇部上の柱配置などの実測と床面の装飾タイル等の痕跡調査が行われ、平面情報の収集・整理が一定の段階に達している。それらの知見を踏まえて格段に復元的研究を進展させるため、本研究活動が計画されている。また、先行する文部科学省・私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア推進事業）、平成14年度～平成18年度、「ユネスコ世界遺産・フエ遺跡群とその環境の保全計画（開発途上国に対する歴史的文化的遺産保護に資する国際協力と技術移転の確立）」及び早稲田大学理工学総合研究センター、プロジェクト研究、平成14年度・平成16年度、「ヴィエトナム・フエの文化遺産デジタルアーカイブの構築」（計画調書、基盤S-7、参照）と密接に関連させた総合学術研究としての基盤を構築することを目的としている。</p> <p>本研究は、計画調書・基盤S-8・同S-9に示す通り基礎研究（8研究項目）・応用研究（5研究項目）に大別され、以下の2点を明らかにすることを上位目標とする。</p> <p>①大宮門と勤政殿によって構成される区域（勤政殿区域と称す）の発掘調査を行い、基壇の構造と耐久性を解明する。当該区域は、史料により宮殿の移築など大幅な改変が為されたことが判明しており、発掘調査の遂行により阮朝初期の造営計画を実証的に知り得る可能性が高い。</p> <p>②勤政殿区域の復原模型を製作する。阮朝前・後期に区分し、当該区域の変遷を模型製作を通じて考察する。模型製作では、部分模型を別途製作し、特に接合部の復原など架構の技法に関する考察と細部意匠の復原が試みられる。</p> <p>以上、2点を試みるに当たり、受け入れ側であるヴィエトナム中央政府文化情報省及び地方政府トゥアティエン・フエ省人民委員会、カウンターパートである県立フエ遺跡保存センター（以下、HMCCと称す）の要請・許可・協力・支援の下、当該研究活動が進行する（計画調書、基盤S-9、海外共同研究者の必要性について、参照）。</p>							

⑦これまでの研究経過（研究の進捗状況について、必要に応じて図表等を用いながら、具体的に記入してください。）

計画調査記載の、（基礎研究8項目）及び（研究応用研究5項目）の進捗状況は、以下の通り。基礎研究項目は、平成6年度以来、一連の科学研究費の採択を経て継続的に進められてきた内容を含み、その成果の活用は本研究においても重要な役割を担う。当該研究組織等による既往の学術成果の一部は、科研費「研究成果報告図書」として既にまとめられている（国会図書館蔵）。また、阮朝の文化遺産の再興に資する学術情報として相手国政府より一定の評価を得ている（VN国功労賞を授与）。

5年間の研究期間の内、最初の3年間は基礎研究項目を重点化させ、3年目（本年度）に応用研究項目の計画準備を図り、既述の2点の上位目標の実現可能性を図る（当該研究活動の特徴として、相手国政府からの許可申請及び共同研究を前提として進める必要があることから、下記の個別の研究計画の開始・終了期間は必ずしも我が国の年度単位で進められるわけではない場合もある、問題点等の詳細は、S中間-5、参照）。

（乾成宮復原に関する基礎研究項目）

①フェの建造物群の基礎資料集成の作成： 当該研究項目は、研究計画調査（基盤S-6・同S-7）の記述の通り、一連の海外学術調査の核を成すものである。至近の2年度分においても都城・陵墓・宮殿・住宅等の実測調査・痕跡調査による一次資料の収集に努めた。帰国後は、基本図面の作成を行い「中間報告図書：調査の概要、目的、野帳、写真、基本図面等」として毎次、まとめている。15年度は、阮朝京城内の3棟の宮殿建築（隆安殿・国子監彝倫堂・香願亭）の実測・痕跡・文献調査、住宅（往時の官吏住宅等）の悉皆調査及び京城圍繞壁と砲台の配置測量（GPS・光波測量距離儀を使用、CAD図を作成）と、各対象遺構の写真撮影を行った。嗣徳帝陵配置測量（新規）および同帝陵寢殿の実測調査（新規）を開始。16年度8月は、京城の配置測量、乾成宮の基壇遺構の実測調査を行った。さらに3月には嗣徳帝陵配置測量、京城の配置測量および宮殿建築の補足調査を行った。実測値は、例えば乾成宮内の失われた宮殿建築群の寸法分析に用いられ、史料との照合により換算値を出している。併せて、広域遺跡群の分布図作成（GIS・コンテンツ）を目的とした都城や陵墓などの衛星写真の使用を進めた。

②細部意匠情報のデータベースの作成： 平成13年度までの細部意匠情報（拓本・写真資料）の情報に基づき、様式分類および編年考察を行う。この情報を含めた全ての写真資料を画像ファイルとして電子情報化し、DVDメディアに記録・保管した（およそ、2万5千点）。それらの活用方法として、専用サーバの構築、XOOPS等ウェブ閲覧システムの導入を検討し、データベースを構築している。

③阮朝・史料の収集および読解・整理： 建立年代や改変時期、使用方法などを収集・読解し、データベース化する。阮朝の漢籍史料「大南一統志」、「大南會典事例」、「大南寔録」および植民地時代の仏文資料「フェ友の会紀要」、「極東学院紀要」、往時の写真資料などを継続的に入手している。これまでの収集の結果、極東学院・海外公文書館・漢喃研究院・東洋文庫などの諸機関に保管されている史料の残存状況が確認された。また、「安南通史」の記述にある建築・都市の情報を年表としてまとめた。

④伝統的技術保持者に対する聞き取り調査： ヴィエトナム人大工・漆工などの伝統的技術保持者に対する聞き取り調査の成果を考察し、口承による技術体系の整理を進めた。宮殿建築の伝統技術を伝える文書は発見されていないため、本研究項目は設計・施工技術の復原に有用な示唆を付与する。16年度は、現地の伝統的技術保持者に伝統的住宅模型の製作を依頼し、製作作業と並行して作業工程の聞き取り調査を行い、効率的な情報の収集・整理が可能となった。ものさし等の大工道具の使用方法、漆職人の作業工程については、その内容を継続的に調査し適宜、研究報告を行った。

⑤日本・韓国・中国における都城と宮殿建築の比較調査：（→平成17年度の項目に変更）

⑥先行事例研究： 奈良平城京朱雀門・大極殿・東院庭園等、当該再建事業案の先行事例を担当する独立行政法人・奈良文化財研究所の協力を得て、再建事業現場の視察と事業内容に関するレビューを受けた。

⑦歴史的都市の保存・再生計画に関する調査： 歴史都市における伝統的な環境の保存・活用についての潜在的価値の発見に努めた。主管であるVN中央政府・建設省の協力の下にフィールドサーベイを進め、旧市街（京城）の現状と変容について現地調査を行った。既存の都市基盤整備計画の状況把握、特に伝統的水循環施設の悉皆調査と城壁・橋梁の補修整備のための予備調査を進め、親水性のある空間を再生させるための計画案に必要な学術情報を収集した。既存住宅の利用状況を土地の分割状況とともに把握した。まとまりある住宅と街路の対応関係・まとまりある地域内での居住の在り方を理解するために、個別に街路・地域を選定し、現況調査（サンプル数、25件程度）を進めた。その他、船上生活者の居住実態と陸地再定住に関する調査、京城内水系に関する予備調査を進めた。観光事業の実態に関する観察を進めた。

⑧文化財保護行政および技術移転を前提とした国際協力に関する調査： 15・16年度は近隣東南アジア諸国の行政、法規に関する資料収集に努めた。

（乾成宮復原に関する応用研究項目）

①基壇発掘調査計画の策定： 残存する基壇（上部架構は、戦禍により焼失）の現状調査を行った。将来的な発掘の対象である勤政殿基壇に隣接する乾成殿とその回廊の残存状況を実測し、乾成宮の基壇の構成に関する復原考察に一定の成果を残した（中間報告図書としてまとめた）。本研究項目は、技術移転の意味合いも含めて現地の保存修復技術者と共同して行われた。現地側の要望を踏まえて、具体的な発掘調査は平成17年度以降とする。

②復原設計研究： 当初の計画にある勤政殿の復原設計を効率的に進める上で、現存する太廟・隆徳殿の修理工事に参加し、その経験を経て、勤政殿の復原設計研究を進める方法に変更した。

③材料・施工技術調査： 15年度は、世廟・土公祠の木構造の振動特性解析を進めた。類似の単棟式宮殿建築から構造的要素が異なる3棟を選び、常時微動測定および自由振動実験を行った。測定結果より、軸部と壁体の関係によらず壁量で振動特性が決まる傾向を看取した。16年度は、太廟・隆徳殿の振動特性解析の他、京城・龍安殿に湿度計を設置し一定期間の傾向を数値化した。木造建築物の室内環境を調査するため、隆徳殿と隆安殿に温湿度計を設置し、毎時温度と湿度をモニタリング。なお、過去の研究活動において我が国における伝統的漆工技術者（齋藤漆工芸）による調査協力を得ており、現在、漆塗りの指標となる手板を復原的に製作中。

④環境復原調査： 焼失以前における空間の実際の使用状況、調度品の扱いなどを儀礼関係の史料（例えば「大南會典事例・礼部」）を用いて復原的に考察する。20世紀中葉までの写真資料から内部空間の復原を試みる。写真資料の定点撮影から変化を追い、フォーマットを用いて整理した。

⑤マスタープランの策定：（→予定通り、平成18年度より扱う）

**⑧特記事項** (これまでの研究において得られた、独創性・新規性を格段に発展させる結果あるいは可能性、新たな知見、学問的・学術的なインパクト等特記すべき事項があれば記入してください。)

**【東洋建築史・東アジア建築史の確立に資する】**

90年代中葉の時点でベトナム建築史は体系的に整理されていなかった。それから10年を経た現在、ベトナム政府が社会の底上げ的な浮揚（対外開放政策とASEAN加盟等）を目指した結果、同国の当該分野に資する基本情報も一定の成果を見出すことができる。とりわけ「フエの建造物群」の建築歴史においては、当該研究組織が継続的に果たした役割は大きく、作成されたほとんどの図面情報が唯一の資料となり学術価値を有すると信じたい。また、実測方法及び測量値の精度において、いずれの実測調査においても設計方法の解明を念頭においた分析が検討され、フエの建造物群に対するこうした水準での実測調査は、これまでに例がない。従って、これらの数値情報に基づいて行われる設計方法および配置寸法計画の分析に関しても、これまでにない水準が期待できる。目下のところ、推定遺構尺と標準尺の実長の比較、史料の寸法表記からの換算値等を分析した結果、量地尺（田尺）4664mm、营造尺（木尺）4240mm近傍を、当該文化遺産の換算値とした。これは我が国や中国の同時代の換算結果と比べて、根本的に実際の長さが異なるという結果を残し、その理由を明らかとすることが究極の課題である。

**【宮殿建築の復原設計の方法を技術移転】**

技術移転の観点から、復原設計の作業内容を共有する予備的段階として、小規模宮殿建築である太廟・隆徳殿の修理工事計画を進めた。現状把握のため、修理前の状況を実測し、例えば、柱の傾きの傾向を数値化した。その結果、基壇の不陸の状態が数値情報として判明した。VN国における初の試み（実験）として木造架構の振動特性の分析を行った。隆徳殿に使用されている2種の木材（リムサンとキエンキエン）について、材料実験（縦圧縮・横圧縮・部分圧縮・曲げ・せん断）を行った結果、いずれも我が国の木材で同程度の比重を持つシラカシか、それ以上の強度を示し、我が国の構造解析の手法をそのまま適用するのではなく、隆徳殿の構造実験専用の準備が必要であると考えられた。

その他、木造建築物の室内環境を調査するため、隆徳殿と隆安殿（天井の有無での比較、隆徳殿は天井無し。隆安殿は天井有り）に温湿度計を設置し、毎時温度と湿度をモニタリングすることとした。なお、漆塗りの指標となる手板工程を復元的に製作中であり、初の試みとして評価される。

**【宮殿建築等の実測調査・痕跡調査の方法を技術移転】**

HMCCに対して、フエの歴史的建造物群の基礎資料集の作成方法を技術移転した。宮殿の架構を体系的に分類・整理。実測値の寸法分析を行い、遺構に用いられた推定尺度と計画寸法を各遺構の比較考察を通して決定した。

**【伝統住宅の設計方法・生産組織】**

史料として宮殿建築の伝統技術を伝える文書が発見されていないため、宮殿建築の設計・施工技術の復原にあたり、伝統的技術保持者に対する聞き取り調査は非常に有効な手段となる。随時、大工への聞き取りを進める中で、現地の伝統的技術保持者に伝統的住宅模型の製作を依頼し、製作作業と並行して聞き取り調査を行った。こうした調査手法により、効率的な情報の収集・整理が可能となった。フエの伝統的建築技術に対するこうした調査手法や調査結果は前例が無く、既に充分な新規性が認められるが、これに基づいて行われる分析等に関しても、これまでにない水準が期待できる。

**【都城の造営計画】**

同国で初めてGPS測量を導入し、初めて京城全域の配置測量を行った。数値を分析した結果、一坊あたり40丈の地割りであったと推測。また、京城外郭を構成する砲台と圍繞壁の測量結果により、全体計画を前提とした部分の構成であることを明らかとした。その結果、史料からの情報を踏まえて、阮朝京城が初代・嘉隆帝及び第二代・明命帝の治世において、完形を整えた結論付けた。

阮朝の王宮は清朝・紫禁城に対しその規模を縮小・簡略化したものであり、韓国・景福宮とも同様な東北アジア宮殿文化圏にある。乾成宮の文化的な特質を把握するためには、中国や韓国に現存する都城の特質を掴み、比較の視座を獲得することが学術上意味を持つ。その一方でVN国内のヴォーバン式城塞の分布状況を文献資料より追った結果、阮朝京城について世界史水準からの考察を進めている。

**【歴代皇帝陵の配置計画】**

嘉隆・明命・紹治・嗣徳帝、歴代4代の陵墓の領域を測量した。配置寸法計画の分析に耐えうる精度にて実測を行っており、陰宅・陽宅概念と尺度の問題を分析中。

**【都市の開発と抑制】**

フエの歴史的環境を、生態的な都市環境と位置づけ、その持続可能性について相手国地方政府に対してシミュレーション・モデルを提示し一定の理解と評価を得た。

**【文献史料の状況】**

阮朝・史料の収集および読解・整理：阮朝史料に記載される建築・都市の情報（建立年代や改変時期、使用方法など）を収集・読解し、データベース化する試みは両国にとって初。既に、阮朝の漢籍史料「大南一統志」、「大南會典事例」、「大南寔録」および植民地時代の仏文資料「フエ友の会紀要」、「極東学院紀要」、往時の写真資料などを継続的に入手。一部、希少性の高い文献も得た。

**【デジタル・アーカイブ】**

写真撮影については、アナログからデジタルに完全に移行。基礎資料を即座に電子情報化している。テラバイトの容量を持つ専用サーバの構築、XOOPS等ウェブ閲覧システムの検討を踏まえて、データベースを構築した。

**【総合政策】**

我が国の国際的イニシアティブの確保という国策を踏まえて、国際協力の枠組みを形成しつつ技術移転を進めることを実行した。このことは、当該研究活動の波及効果として重要視される。同国において当該分野の法制度は未整備の状況にあり、先行する我が国の状況を紹介するなど何らかの提言の必要性が強く認められる。

⑨研究成果の発表状況 (この研究費による成果の発表に限り、学術誌等に発表した論文(掲載が確定しているものを含む。)の全著者名、論文名、学協会誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)、及び国際会議、学会等における発表状況について記入してください。なお、代表的な論文3件に○を、また研究代表者に下線を付してください。)

○中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭、中村泰一

「乾成宮の復元的研究(I) ヴィエトナム/フエ・阮朝王宮の復元的研究(その73)」

『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 201-202, 2003.

中村泰一、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭

「乾成宮の復元的研究(II) ヴィエトナム/フエ・阮朝王宮の復元的研究(その74)」

『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 203-204, 2003.

中沢信一郎、中川武、坂本忠規、林英昭、中村泰一

「史料にみられる京城(II) ヴィエトナム/フエ・阮朝王宮の復元的研究(その75)」

『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 205-206, 2003.

坂本忠規、中川武、中沢信一郎、林英昭、中村泰一

「ケオの技法(I) ヴィエトナム/フエ・阮朝王宮の復元的研究(その76)」

『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 207-208, 2003.

林英昭、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、中村泰一

「隆安殿について(I) ヴィエトナム/フエ・阮朝王宮の復元的研究(その77)」

『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 209-210, 2003.

齋藤潮美、中川武、中沢信一郎、坂本忠規

「表徳殿の内部塗装状況について ヴィエトナム/フエ・阮朝王宮の復元的研究(その78)」

『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 211-212, 2003.

中村泰一、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、佐々木昌孝、林英昭、安岡義文

「乾成宮の復元的研究(III) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その79)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 549-552, 2004.

佐々木昌孝、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭、中村泰一、安岡義文

「乾成宮の復元的研究(IV) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その80)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 553-556, 2004.

安岡義文、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、佐々木昌孝、林英昭、中村泰一

「乾成宮の復元的研究(V) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その81)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 557-560, 2004.

坂本忠規、中川武、中沢信一郎、林英昭

「フエ遺跡群に関する写真資料 ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その82)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 561-564, 2004.

荻原千聡、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭

「乾成宮の復元的研究(VI) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その83)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 565-568, 2004.

林英昭、中川武、中沢信一郎、坂本忠規

「隆安殿について(II) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その84)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 569-572, 2004.

大塚健司、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭

「ヴィエトナムにおけるヴォーバン式城塞 ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その85)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 573-576, 2004.

阿部令、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭

「京城の配置計画についてV ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その86)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 577-580, 2004.

小島悠揮、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭

「ヴィエトナムにおける墓の構成(II) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その87)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 581-584, 2004.

清末隆廣、中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭

「ものさしについて(IV) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その88)」

『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp. 585-588, 2004.

○中川武、中沢信一郎、坂本忠規、林英昭、レ・ヴィン・アン

「乾成宮の復元的研究(VI) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究(その89)」

『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 549-550, 2004.

- レ・ヴィン・アン, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭  
「乾成宮の復原的研究 (VII) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その90)」  
『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 551-552, 2004.
- 中沢信一郎, 中川武, 坂本忠規, 林英昭, レ・ヴィン・アン  
「京城の配置計画についてVI ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その91)」  
『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 553-554, 2004.
- 坂本忠規, 中川武, 中沢信一郎, 林英昭, レ・ヴィン・アン  
「宮殿の木造架構 ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その92)」  
『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 555-556, 2004.
- 林英昭, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, レ・ヴィン・アン  
「隆安殿について (III) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その93)」  
『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 557-558, 2004.
- 白井裕泰, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭, レ・ヴィン・アン  
「隆徳殿における反りについて ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その94)」  
『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, pp. 559-560, 2004.
- 松島彩, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭, レ・ヴィン・アン  
「乾成宮の復原的研究 (VIII) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その95)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.373-376, 2005.
- レ・ヴィン・アン, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭, 松島彩,  
「乾成宮の復原的研究 (IX) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その96)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.377-380, 2005.
- 坂本忠規, 中川武, 中沢信一郎, 林英昭  
「勤政殿の復原的研究 (VII) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その97)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.381-384, 2005.
- 荻原千聡, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭  
「勤政殿の復原的研究 (VIII) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その98)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.385-388, 2005.
- 阿部令, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭  
「京城の配置計画について (VII) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その99)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.389-392, 2005.
- 中沢信一郎, 中川武, 坂本忠規, 林英昭, 阿部令  
「史料にみられる京城 (III) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その100)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.393-396, 2005.
- 大塚健司, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭  
「史料にみられる京城 (IV) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その101)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.397-400, 2005.
- 小島悠揮, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭  
「謙陵の配置計画 (I) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その102)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.401-404, 2005.
- 林英昭, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 小島悠揮  
「和謙殿について ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その103)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.405-408, 2005.
- 林英昭, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, レ・ヴィン・アン  
「伝統住宅の設計技術 (I) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その104)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.409-412, 2005.
- 清末隆廣, 中川武, 中沢信一郎, 坂本忠規, 林英昭, レ・ヴィン・アン  
「伝統住宅の設計技術 (II) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その105)」  
『日本建築学会関東支部研究報告集』研究報告集II, pp.413-416, 2005.
- 中川武, 中沢信一郎, 林英昭, レ・ヴィン・アン  
「乾成宮の復原的研究 (X) ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その106)」  
『日本建築学会大会学術講演梗概集』2005.9月 発表予定, 投稿中
- 中沢信一郎, 中川武, 林英昭, レ・ヴィン・アン, 大塚健司  
「京城の配置計画について VIII ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復原的研究 (その107)」  
『日本建築学会大会学術講演梗概集』2005.9月 発表予定, 投稿中

白井裕泰, 中川武, 中沢信一郎, 林英昭

「隆徳殿の柱内転びについて ヴィエトナム・フエ阮朝王宮の復元的研究 (その108)」

『日本建築学会大会学術講演梗概集』2005.9月 発表予定, 投稿中

大田省一

「1940年代仏領インドシナの公共事業政策—ドクアの政策と都市・建築」

東京大学東洋文化研究所紀要, 第147冊, 2005. 発表予定

Shoichi OTA

“Architecture in both world-the North and the South Vietnam”

Proceeding of the International DOCOMOMO conference, Vol.8, 2005. 発表予定

Le Vinh An, Takeshi Nakagawa, Shinichiro Nakazawa, Tadanori Sakamoto, Hideaki Hayashi

“Complex of Hue Monuments, its introduction, value and diversity”

Proceedings of the 5th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (Matsue, Japan), pp. 102-105, 2004

山口亜由美, 腰原幹雄, 坂本功

「ヴィエトナム・フエ阮朝宮殿建築の振動特性」『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, 2004.

山田大樹, 古川尚彬, 佐藤滋

「ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (9) 船上生活者集落の概況と陸地定住過程」『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, 2004.

古川尚彬, 山田大樹, 佐藤滋

「ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (10) 家船/再定住先住居の空間利用と血縁近居の状況」『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, 2004.

深沢創一, 古川尚彬, 山田大樹, 佐藤滋

「ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (11) 世帯分離の形態とそれに伴う住宅建築の変容」『日本建築学会大会学術講演梗概集』F-2, 2004.

「フエの建造物群に関する研究成果報告会」

基調講演: 坂本功 (東京大学大学院工学系研究科・教授)

“Structural Evaluation of Traditional Timber Buildings”

研究報告: 山口亜由美 (東京大学大学院工学系研究科・博士課程)

“The Reports of the Micro Tremor Measurement and the Material Test on Hue Monuments”

レ・ヴィン・アン (早稲田大学大学院理工学研究科・委託履修生, フエ遺跡保存センター技術職員)

“Methodology for the Joint Research –Research Program and Technical Transfer”

ヴィエトナム・フエ市, 古都フエ遺跡保存センター2F会議室, 2004年3月16日

「世界遺産ヴィエトナム・フエの歴史的建造物群の学術調査・国際的な共同作業による歴史的環境の保全」

「早稲田大学研究推進フォーラム2003」研究パネル展示, 2003年10月9日

早稲田大学国際会議場井深大記念ホールおよび3階会議室

「ユネスコ世界遺産・アジア地域の遺跡群とその環境の保全計画 (国際的な共同作業に基づく活動報告)」

「早稲田大学アジア研究フォーラム2004」研究パネル展示, 2004年11月15日

早稲田大学国際会議場3階会議室

(産学連携を主旨とするアジア研究フォーラムの場において, ユネスコ世界遺産とアジア地域を対象とした当該研究所のヴィエトナム・フエの建造物群, カンボディア・アンコール遺跡群とサンボープレイクック遺跡群, マレーシア・ジョホールバルのスルタン王宮・宮殿建築群等の活動状況を報告展示した)